

保育計画成果報告書

法人名	学校法人シャローム学園
施設名	ひかり認定こども園
報告者（役職）	橋本孝（園長）
住所・連絡先	埼玉県さいたま市浦和区領家7丁目2番14号
	☎ 048-831-2652
	E-mail:kg-hikari@nifty.com

○タイトル（保育計画）

みんなでリズムを楽しもう

○主な助成備品

ヤマハキーボード D-Deck

1. 保育計画策定の目的

現代の社会では、子ども達が十分に運動し難いという問題がある。子ども達にとって運動は必須のものであるが、現代の社会環境や生活環境の中で、十分な運動を行うことがかなり難しくなっている。それを補う為にも、本園では子ども達が楽しみながら動けるような遊びを設定したり、縄跳び等の記録を付けたり、体操の時間を設けたりしながら、園が意識して運動することができるようにカリキュラムを設定していた。

ただし、自発的な運動遊びは望ましい事ではあるが、子どもによっては運動を余り好まなかったり、縄跳び等では回数を跳べる子の運動量は増えて行く（千回以上）が、回数を跳べない子（数回等）の運動量は余り増えない等の欠点が見受けられた。この欠点故に運動を好み運動が出来る子と好まない子の差がますます増大して行く傾向が見られる。

体操の時間も運動量を増やすには良い仕組みではあるが、欠点としては人数が多い場合待ち時間が長い、学ぶ事は体の使い方のテクニックが主で、運動量が必ずしも増えるとは言えない等が見受けられた。この欠点の解消をテーマに持ち続けていたところ、リズムを中心としたリトミックであれば、音楽に合わせて体を動かすため、楽しみつつ運動量を増やす事ができ、同時に情緒面や想像力、思考力等が伸びる事も期待される。故に、保育教諭にリトミック研修に参加してもらい、リトミックの技術を向上させることとした。同時に、財団より寄贈されたヤマハキーボードD-Deckを活用し、リトミックを行う計画を立てる。

目的

- 1・リズムに乗せて全身運動を楽しむ。
- 2・演奏する多種多様な音源からなる音楽を通し、情緒や感受性を育てる。
- 3・リズムの変化等を通し、注意力や思考力を養う。
- 4・音楽の背景（ここは動物園、ここは遊園地、等）を色々変化させる事を通じ、イメージを膨らませ、運動を楽しむ。

2. 具体的な実施内容

リトミックの時間を設け、子ども達と一緒に遊ぶことを基本的な形とした。研修を受けている（現在進行形）保育教諭が、始めに子ども達に基本的な動きや設定を伝え、それを動きの中で次々と発展させてゆく。場所をイメージし、今日のホールは動物園です、今日はジャングル、遊園地、海の中等、色々な状況設定にプラスして、子ども達が自由に動きを考えて動く事も大切なので、自身が魚になったり、動物になったり、それに伴い、動きを多彩なものとして、走る、跳ぶ、歩く、しゃがむ、寝転がる、腹ばいになって動く、膝をついて動く等色々な形を取り、音楽、リズムに合わせてイメージを膨らませて動いてゆけるように心掛ける。また、学年によっても難易度を変え、年齢が上がるにつれより高度な設定、動きで動くように心がける。

基本的にリトミックを行うに際して、場所はホールを使っている。最初は手をつないで歩いたり、子ども達の好きなフォークダンス等、簡単な動きを中心とする。



次にイメージを膨らませながら曲を演奏し、子ども達はそれに合わせて動いて行く。曲には強弱や緩急をつけ、それを聞きながら子ども達は思い思いに動く。写真は遊園地のイメージで、ジェットコースターに乗ってゆっくりと上に上がって行き、頂点から下に加速度がかかって降りて行くイメージで、ゆっくりから急に速くなるリズムの変化を子ども達は大喜びで楽しんでいる。

時間は30分前後を中心とし、子ども達が慣れるに従い、体力に応じ時間や運動強度等を調整する。運動の内容を子ども達の様子に応じて変更することができる事が、リトミックの大きなメリットであると思う。

3. その成果と評価

キーボードの多彩な音源を用いて速度や音の大きさに緩急をつけたり、非常に多様な使い方ができ、子ども達への良い刺激になっていると思う。30分も行くと、教職員もへとへとになるくらい運動量があり、同時にイメージを膨らませたり、音量や音程、スピードの変化に対応して行くので、子ども達の集中力も増してきているように感じられる。また、運動量がその時その時の子ども達に適した量をその都度選択する事ができて、体力向上を含め、多くの成果が感じられる。写真を見ていただくと分かるように、子ども達はリズムに乗った運動を楽しみながら、心が解放されて行く様子を見ることができる。子ども達は自由に遊ぶ時間にもリトミックで学んだ動きを試してみたり、リズムを口ずさみながら動物になってみたりと遊びに幅が広がってきている。D-Deckを用いたリトミックには高い評価をしている。

4. 今後の課題と展望

今後の展望としては、リトミックやD-Deckを用いた運動、リズム関係の一層の充実を図って行きたい。教職員にリトミックの研修を積んでもらい、定期的なカリキュラムとし



で行っていく事ができるようにするだけではなく、遊びの時にも遊びの展開によっては自由に入って行けるようにできたらと思う。

課題としては、キーボードを使いこなす為に多くの教育と練習が必要であること。演奏する為にはピアノの素養が必要だが、指が動くだけでは十分ではなく、機械のメカニズムや操作方法の知識が必要となり、思いの外ハードルが高いと言えよう。現時点で本園では一人の保育教諭が使用法を学んでいるが、一通り使いこなす為だけでも相当の練習が必要となるであろうと思われる。

以上